

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001617		
法人名	医療法人 西口整形外科		
事業所名	グループホーム千音寺 かおりユニット		
所在地	名古屋市中西区富田町大字千音寺字間渡里2883番地		
自己評価作成日	平成30年10月4日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2371001617-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を共有しながらその人らしさを尊重して希望に添えるよう支援している。又、定期的にホームだよりを発行し、ホームでの様子を紹介して行く事により家族とのかかわりを大切にしている。悩みなどの相談には常に対応し、家族の意見を重視している。母体の法人が整形外科診療所を開設している医療法人であり、医療リハビリには力を入れている。又、介護事業も通所リハビリ・認知症デイサービス・介護老人保健施設等を運営しており、多機能となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営母体が老健も運営している医療機関であることで、医療面での支援が充実していることが、ホームの特徴でもある。母体の医療機関で整形外科が開設されている利点を活かしながら、ホームの利用者がリハビリ等で受診に出かけており、利用者の外出の機会にもつながっている。その他にも、ホームはデイサービスと併設して開設されていることで、デイサービスの行事の際にはホームからも利用者と参加する取り組みが行われており、利用者の楽しみにもつながっている。また、地域の方との交流についても、ホームから前向きな取り組みが行われている。今年度より開始された、地域で行われているサロンにホームからも利用者と参加する機会をつくったり、地域包括支援センターとも連携しながら、近隣地域の方の鍵をホームで預かる支援事業に協力する等の取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	共同生活室に理念を掲示し、ミーティング時に唱和し理念を共有して職務にあたる様にしている。	利用者がその人らしく生活できるように、5項目にわたる理念を掲げており、ホーム職員による支援の基本にもなっている。職員会議の際には、理念の唱和が行われている。また、理念をホーム内に掲示してあり、日常的な意識にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の小中学校の体験学習の受け入れや行事等でボランティアの訪問もある。散歩や近隣の店へ積極的に出かける様にしている。	地域の方との交流の機会をつくりながら、地域の方が行っているサロンにホームからも参加する取り組みが行われている。また、併設事業所を通じた交流の他にも、ホームでも小中学生を通じた交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	月一回の地域のふれあい喫茶に出かけてる。地域の人々とふれあいとグループホームを知って頂く機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームだより等の参考資料を配布して、サービスの取り組み・現状等を報告し意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	会議の際には、地域の方も参加している他にも、行事を通じた開催も行われており、家族の参加も促している。また、年2回の会議については、併設事業所との合同の会議としており、事業所全体の運営状況の報告が行われている。	家族の参加については、行事を通じた開催等、ホームで可能な働きかけが行われているが、参加が難しい状況でもある。ホームからの継続的な家族への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	定期的に区の保護係の担当者の訪問を受け、現状等の報告をしている。運営会議にはいきいき支援センター職員に参加して頂いている。又、地域の独居高齢者の鍵預かりサービスモデル事業に協力している。	ホームに生活保護の方も生活しており、市の担当部署との情報交換が行われている。地域包括支援センターが行っている鍵の預かり事業にホームが協力しており、地域貢献と福祉施策への協力にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部からの侵入等の安全面を考慮し、玄関のみオートロックモニターで管理している。ユニットの入口は基本的に施錠はしない様にし、身体拘束しないケアを心がけている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、エレベーターが利用者も動かすことができるため、職員間での連携した利用者の見守りが行われている。また、運営推進会議を通じた定期的な検討や関連事業所を通じた職員研修にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加し、資料等を回覧し職員間で知識を共有しながら事業所内で活かす様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加し、制度の理解を深める様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、十分時間を取り説明を行う。理解・納得の上契約して頂いている。報酬改定時には内容等を書面にし説明の上同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には家族からの要望や意見を聞き、利用者様の様子等を伝え情報交換をしている。色々な要望などを毎日の生活に取り入れるようにしている。	ホームで行事が訪問販売が行われる際には、家族にも案内を行っており、意見交換等が行われている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも運営法人の幹部職員も対応している。また、ユニット毎に定期的なホーム便りが作成されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2ヶ月に一度のミーティングを開催し意見交換や提案等を聞く機会を設けている。連絡ノートを活用し情報交換を行い運営に反映させたりしている。	ユニット毎に職員会議が行われているが、日常的にも職員間での意見交換等が行われており、職員からの意見をホームの運営に反映する取り組みが行われている。常勤職員中心の体制であり、職員一人ひとりが役割と責任を持つ取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護労働者雇用管理責任者を置き、勤務状況等を把握し就業環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修などに積極的に参加し、資料等を職員間で共有し、研修内容を他職員にフィードバックし、質の高いケアを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修参加時に同業者との意見交換を通じて交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に本人と直接話す機会を作り本人様の考えている事・希望・不安等に耳を傾けながらサービス提供の参考にし事前のコミュニケーションを取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前の会議・面談にできる限り参加し、ご家族様の希望・不安等に耳を傾けサービス提供に活かす様にしている、ご家族様が安心できる声掛けにも心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談や話し合いの中で何が重要な支援なのかを探し、他のサービスで良いものがあれば活用しようと努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人様の身体の状態等を考えつつ暮らしの中でやって頂ける事を探し自分の存在意義を感じて頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とのつながりをできるだけ持っていたくよう、来所された際には、ホームの様子を伝えかけ離れた存在にならない様現状を伝える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人と共に喫茶店に出かける支援をしている。 外泊した折に行きつけのカラオケ喫茶に行く事がある。面会時に家族・友人と外食をしている。	利用者の中には、近隣地域からの入居の方があり、外出した際に友人、知人と会うこともあり、馴染みの方との交流にもつながっている。家族との交流も行われており、定期的に家族と外出している方や時には自宅に戻り家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	テーブル拭きや食器洗いを行ったり、井戸端会議等をしながらお互い昔話の中で交友を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても必要に応じて家族の相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の様子を注意し見守る事により本人がどう暮らしの希望を求めているのかどうかの把握に努めている。	ユニット毎に職員全員で利用者に関する把握に取り組んでおり、日常的な申し送りを通じた意見交換を行いながら、日常の支援につなげる取り組みが行われている。また、定期的なカンファレンスが行われており、利用者に関する検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活歴をゆっくり話せる場を持ち今までの暮らし方生活環境を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人の生活の様子や一日の流れを注意深く見守り心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	2ヶ月に一回のミーティングを活用し一人ひとりの暮らしを浴する為の課題・ケアの在り方について話し合いご家族様・本人様の意見を取り入れながら介護計画を作成している。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、状態変化に合わせた見直しが行われている。また、日常的に細かな記録を残しながら、定期的な職員会議を通じた利用者に関する現状確認を行っており、モニタリングにつなげている。	定期的に職員間での利用者の現状確認が行われているが、介護計画の内容に関するモニタリングが行われていないため、今後に向けたホームの取り組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に気づいた事や工夫があれば、個別計画の課題の欄に記入し、職員間で見直しするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時に生まれるニュースに対して一人ひとりの希望や家族の状況においてできる限り対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	二か月に一度地域の方や民生委員の方を交え、運営推進会議を開催し、情報共有の場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月二回、協力委の訪問診療があり本体施設の整形外科への受診・リハビリ等も行っている。必要に応じて眼科・歯科の受診も行っている。	ホームの運営母体は医療機関であるが、日常的には運営法人とは別の医療機関による訪問診療等の支援が行われている。ホーム職員による受診支援等の対応も行われている。また、関連事業所の看護職員による健康チェック等の支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の体調変化等の報告。変化が見られたときは指示を受け適切な処置をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日常生活の様子を関係者に提供し、退院時は病院予知情報を受け退院後の生活がスムーズに行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時にホームの方針を説明させて頂き、容体に変化があった際にはその都度主治医・家族と連宅を取り合い方針を共有し支援している。終末期には十分に説明同意の上同意書を作成している。	ホームでは、医療面での連携を深めながら、看取りを見据えた支援にも取り組んでおり、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。関連に老健があるが、ホームでも支援可能な取り組みが行われており、利用者、家族の意向に合わせている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時については全職員で話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防設備点検業者の協力のもと、消防訓練を実施している。 地域住民の一時避難受入れも検討している。	年2回の避難訓練の際には、通報装置の確認や関連の老健等を含めた消防署職員との連携が行われている。備蓄品については関連の老健に確保されているが、ホーム内にも水や食料等の確保が行われている。	ホームが立地する地域は水害が想定される。建物1階のデイサービスの利用者がホームに避難する可能性があるため、併設事業所との合同の訓練の実施にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ひとりひとりの人格を尊重して埃やプライバシーを損ねない様配慮した言葉かけ対応を行っている。	ホームの基本理念には、利用者のありのままを受け入れ、利用を尊重した対応を行うことを目指した内容を掲げている。職員間で理念を唱和する機会を通じて、職員の振り返りにつなげたり、職員の対応等で気になった際の注意喚起等が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活のあらゆる場面で本人の希望・要望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりその日の体調に応じて本人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月二回の理美容サービスを利用して頂いている。定期的な訪問販売などで好みの洋服等を購入して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭きや食器洗いをしたり、職員と一緒におやつを手作りしたり利用者の希望を聞き、宅配サービスの利用もしている。	食事については、関連事業所にある厨房から提供を受けており、ホームで盛り付けが行われている。季節感に配慮した食事の提供や利用者の身体状態に合わせたミキサー等の食事形態にも対応している。ホームでもおやつ作りの取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂食の進みが良くない時は声掛けをしている。水分は本人の希望以外にも定期的に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず促して口腔ケアを行っている。自力で難しい方は職員の介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録にて一人ひとりの排泄リズムを把握し、声掛けと誘導を行っている。出来る事はご自身で行う事で身体機能の維持に努めている。	利用者全員の排泄記録を残し、職員間での情報交換を行いながら、利用者一人ひとりに対応した排泄支援に取り組んでいる。トイレでの排泄を基本に考えながら、利用者に合わせた声かけ等が行われている。食品を活用した排泄状態の改善にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を多めにとったり、牛乳等便通に良いものを提供したり、服薬等に対応している。腹部のマッサージなども実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	2～3日に一回や本人の希望を聞き、入浴をしている。浴槽に入れない方はリフトを使って入浴している。	ホームでは、利用者の状況等にも合わせながら、週2～3回の入浴ができるように支援が行われている。ユニット毎に2か所の浴室があり、リフトも設置されており、身体状態の重い方にも対応している。また、季節等に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その時々状況に応じて仮眠などを取って頂き、水分補給及び室温などに気をつけている。寒い日には湯たんぽを使用し気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診記録にてくすりの内容・用法等全職員が把握している。処方された薬は2人体制で間違いに無いように確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活力に合わせて食器拭きや洗い物・洗濯畳み・手芸・パズル・折り紙等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	その日の天気や体調に合わせて散歩や近隣のお店に出かけている。家族にも協力して頂き外出できるように支援している。地域の一か月に一回のふれあい喫茶に出かける様に努めている。	利用者の中には、関連の医療機関にリハビリに出かけており、日常的な外出の機会にもつながっている。定期的に行われているサロンや喫茶外出等が行われている。また、季節に合わせた花見や初詣等の外出行事も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ひとりひとりの希望や生活力に応じて職員が同行お店や自動販売機にて買い物が出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に応じて公衆電話や携帯電話等を使用している。又、散歩時にご自身でポストに手紙を投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室・リビングや居間などに手作りの作品などを飾り、毎月異なった飾りつけをして季節感を出す様に努めている。	ホームのリビングは広めの空間が確保されていることで、畳ルームやソファの配置等、利用者が好みの場所で過ごすことができる生活環境が整えられている。リビングの壁面には、季節に合わせた利用者の作品や写真等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	三か月に一度席を替え、名前を机などに記入している。大人数で過ごせるよう歌やゲーム等を行えるようソファなどの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談し危険が無いに仏壇や好みの家具を置いて居心地良く過ごせるように工夫している。又手作りののれん等を付けプライバシーの確保に努めている。	居室については、利用者や家族の意向にも合わながら、入居前からの家具類や趣味の物等を持ち込んでいる方がいる。その一方で、持ち込みの少ないシンプルな雰囲気のある居室の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの持っている力を最大限に生かしながら、おやつ作り・食器拭きや洗い物・洗濯畳み等を行っている。		